



第91回千葉県中央メーデー 開催方法を変更！

～ 集合型の行事・イベントは行いません ～

第91回千葉県中央メーデーおよび県内地域メーデー全12カ所は、例年実施していた集合型メーデーの形態を変えて、ネット配信による開催とします。

これまで千葉県中央メーデーおよび地域メーデーは、各地で屋内・屋外で開催し、多くの組合員および家族、地域の皆さんが参集し盛大に開催されてきました(下記写真参照)。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止を受け、緊急事態宣言の対象地域である本県において、例年通りの開催をすることはできません。参加者の健康と安全を守ることを最優先とし、集合型メーデーを見送る判断に至りました。

昨年の第90回千葉県中央メーデーの様子
(2019年4月29日 開催)



第91回千葉県中央メーデーは、1920年5月2日に日本で初めてメーデーが開催されて、100年目の節目にあたるメーデーです。

以下のとおりネット配信を通して開催し、組合員とその家族の皆さんが共感できるメーデーにしたいと考えています♪

連合千葉HPおよびFacebookによる 映像コンテンツ等の配信

1. 配信日予定日：4月29日～5月末日
2. 内容

(1) 実行委員長挨拶

- ① 4月29日：10時00分～(10分程度)
連合千葉 小谷 裕 会長挨拶
- ② 4月29日：10時30分～(20分程度)
連合 神津 里季生 会長挨拶

(2) 他の映像コンテンツ(予定)

- ① 連合千葉：過去の千葉県中央メーデー紹介
- ② 連合千葉：地域メーデーの紹介
- ③ 連合本部：メーデー100年の歴史
- ④ 連合本部：全国の職場からのメッセージ

※連合千葉HP

<http://chiba.jtuc-rengo.jp/index.html>

[皆さんのアクセスをお待ちしています]

「メーデー」ってなに？

ゴールデンウィークの頃になると、毎年ニュースで取り上げられる「メーデー」。全国で10万人以上が参加する大イベントですが、その起源は意外に知られていません。

メーデーは、英語で書くと“May Day”。古くからヨーロッパでは「夏の訪れを祝う日」とされ祝日とされてきましたが、始まりは1886年の5月1日、アメリカのシカゴで、1日12～14時間勤務が当たり前だった労働環境の改善を求めて労働者がゼネラルストライキ（全国的な規模で行われる労働争議）を起こし、8時間労働の実現を要求したことに由来します。

以降、労働者たちが集まり、権利を主張する日として、ヨーロッパをはじめ各地に広がったのがメーデーです。今では5月1日を「労働者の祭典」として祝日とする国も多く、この日は世界中で労働者たちのイベントや、デモ行進などが行われています。

日本も例外ではありません。連合では毎年この時期に、東京での中央大会に加え、各地でも地方大会が開かれ、大規模なイベントを実施しています。

日本では1920年5月2日に第1回メーデーが東京・上野公園で開かれました。第二次世界大戦中は政府により開催が禁止されましたが、戦後、労働組合の活動再開とともに再び開かれるようになり、日本の労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求に深く貢献し、その役割を果たしてきました。

メーデーには各産業別に組織される産業別労働組合組織（産別）や産別を構成している単位労働組合（単組）から組合員が結集し、労働者の地位や労働条件の向上にとどまらず、人権や労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求など、社会に向けてメッセージを発信しています。

2016年は、全国の地方連合会や地域協議会により500以上の会場でメーデーが開催され、東京の中央大会では40,000人も組合員が集まり、連合が掲げる“暮らしの底上げ”の実現を誓い合いました。



昨年（2019年）の中央メーデー（東京）の様子

1925年5月1日（第6回メーデー）



またメーデーは、産別・単組の垣根を越えた組合員同士の貴重な交流の場でもあります。会場では、さまざまな組織・団体がブースを出展し、ステージショーや子ども向けの参加型イベントなども開催され、家族みんなで楽しめるイベントへと発展しています。

「労働者の団結と主張の場」から「働くすべての仲間の祭典」へ。メーデーの位置づけは、時代の流れとともに変化しているのです。